

芸術科（音楽）学習指導案

授業日：令和5年11月8日（水）2校時
会場：北海道石狩翔陽高等学校音楽室A
クラス：1年選択（音楽I） 13名
授業者：北海道石狩翔陽高等学校
教諭 海野 雅

1 題材名

色々なリズムに親しみ、リズムアンサンブルに挑戦しよう。

2 内容のまとめ

「A表現」(2) 器楽 及び [共通事項] (1)

3 教材名

「クラッピングカルテット 第1番」(作曲：長谷部匡俊)

4 題材の目標

- 様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な他者との調和を意識して演奏する技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付ける。
- リズム及びテクスチャを知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもつ。
- リズムアンサンブルを構成する声部の関わりの変化と曲想の変化との関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 ハンドクラップによる器楽表現の特徴について理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な他者との調和を意識して演奏する技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、ハンドクラップで表している。</p>	<p>思 リズム及びテクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p>	<p>態 リズムアンサンブルを構成する声部の関わりの変化と曲想の変化との関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>


6 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽I

A 表現 (2) 器楽 ア, イの (ウ), ウの (イ) (ウ)
[共通事項] (1) 「リズム」「テクスチャ」

7 題材の指導と評価の計画（6時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	<p>◆ 音符・休符に言葉を当てはめ、様々なリズムを言葉と手拍子で表現する。</p> <p>○音符・休符を言葉で表現する ・既習事項を確認しながら、2つの音符と4つの休符の長さ（時間的比率）について理解する。</p> <p>○与えられたリズムを手拍子で演奏する ・様々なリズムを言葉で表現し、それらを手拍子で演奏できるようにする。</p> <p>○本日のリズムを作る ・与えられた条件で4拍分のリズムを作り、手拍子で演奏できるようにする。</p>	知 （ワークシート）		
2 ・ 3	<p>◆ 「クラッピングカルテット第1番」の演奏技能を身につける。</p> <p>○本日のリズムを作る ・与えられた条件で4拍分のリズムを作り、手拍子で演奏できるようにする。（以後毎時実施）</p> <p>○クラッピングカルテットの練習 ・各パートのリズムに言葉を当てはめ、手拍子で演奏できるようにする。</p>			
4	<p>◆ 「クラッピングカルテット第1番」のアンサンブルの技能を身につける。</p> <p>○グループ練習① ・4～5人グループを編成し、目標と担当パートを決めてワークシートに記入する。 ・担当パートを演奏できるように練習する。 ・同じパート同士で集まって練習する。 ・グループで工夫しながら練習を進める。</p>	技 （観察）		
5 （本時）	<p>◆ グループ練習を通して他のパートとの関わりを意識しながら演奏する。</p> <p>○グループ練習② ・同じパート同士で集まって練習する。 ・グループで工夫しながら練習を進める。 ・他のパートにも耳を傾けながら演奏できるようにする。</p>		思 （ワークシート）	

6	◆ グループ練習を通して曲の完成度を高め、発表する。		
○グループ練習③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えた目標を達成できるよう、アンサンブルを工夫する。 ・本日の練習を振り返りワークシートをまとめる。 ○発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに練習の成果を発表する。 ・他のグループの演奏に目と耳をしっかり傾ける。 ○まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・学習全体を振り返りワークシートをまとめる。 	技 (発表・ワークシート)	 態 (ワークシート)	

8 本時案

本時の目標：グループ練習を通して他のパートとの関わりを意識しながら演奏する。		
過程	○学習内容 ・学習活動	●指導上の留意点 ◆評価
導入 10分	○リズム活動 <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた条件で4拍分のリズムを作り、手拍子で演奏できるようにする。 ・他者とのアンサンブルを通して、リズムが重なったりズレたりする面白さを体感する。 	●生徒の作品を共有し、他者の思考や表現意図に意識を向けさせる。
展開 30分	○パート練習 <ul style="list-style-type: none"> ・同じパート同士で集まって練習し、自分の担当パートのリズムを確認する。 ○グループ練習② <ul style="list-style-type: none"> ・グループで工夫しながら練習を進める。 ・他のパートにも耳を傾けながら演奏できるようにする。 →グループでの話し合いにより、各部分の主役・準主役・脇役を決め、主役にマーカーを記す。 →自分と他者の役割を意識しながら演奏する。 	●前時の内容を想起させ、グループ練習の方法について工夫し、対話的に学習が進むよう働きかける。また、今回は音量に着目した工夫を意識させる。 ◆ 思 リズム及びテクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。(ワークシート)
まとめ 10分	○全体合奏 <ul style="list-style-type: none"> ・全員で合わせて演奏する。 ○本時の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・本日の練習を振り返りワークシートをまとめる。 	●楽曲の構造に着目させ、アンサンブルとしての完成度が高まるよう支援する。